

9/25三多摩公聴会を皮切りに、毎週全国各地で公聴会が開催される。海外でも10/16フィリピン・マニラ公聴会を始め、韓国・インドネシアでも公聴会が計画されている。イラク占領を止める世界の人の声の闘いとむすび、12/11、12東京公判を成功させよう。

10/16 マニラ公聴会

アロヨを共同正犯で起訴予定！

参加ツアー申し込み締め切り間近

一〇月一六日九時から、フィリピン、マニラで、ICTI初めての海外公聴会が開かれます。マニラで公聴会を開く目的は三つ。

アジア反戦ネットワークを構築すること

グローバル資本を利用する目的で、アメリカは今世界中の基地を再編しようとしています。フィリピンでも、アメリカとの間に暫定基地協定を結び、訓練と言う名目で、アメリカ軍の駐留を許しています。韓国・日本で反基地運動が高まる中、再びフィリピンにアメリカ軍基地を構築しようとしているのです。米政権、アロヨ政権の意図を明らかにし、東アジアの軍事化を阻止するネットワークを作る取り組みにしたいと思えます。

沖縄から西岡さん、フィリピンからフィリピン非核連合のローランド・シンプランさん、そして韓国からも代表を派遣してもらい、パネルディスカッションを行います。

イラクで働くフィリピン労働者の実態を明らかに

アロヨ政権は、米軍によるイラクでのフィリピン人雇用を条件に、イラクに派兵しました。この七月、アンヘロ・デ・ラ・クルスさんが人質となったことをきっかけに、ミグランテ・インターナショナルを中心とする撤退要求運動が怒り、アロヨ政権は軍の撤退を余儀なくされました。しかし今尚四二〇〇人も労働者が命の危険にさらされながら働いています。世界に散らばる八〇〇万人の労働者は、フィリピンに外貨をもたらす、重要な資源なのです。雇用対策を持たないアロヨ政権の棄民政策とも言えます。労働者を利用し、イラク戦争に加担しているアロヨ政権の実態を明らかにします。イラクで働いていた労働者の家族が証言します。

アロヨを小泉同様、ブッシュ。

ブレアの共同正犯として起訴します。

既に、検事団長のカブロンさんが、起訴状作成に取りかかっています。原案は一〇月二日に完成する予定です。

また、前日の一五日には公聴会場近くのケソンメモリアルサークルでMAPALADKA(親子で行う地域からの平和運動)が取り組まれます。昨年は一〇〇〇

9/25 三多摩公聴会 テーマは「戦争民営化」 戦争・占領を支える 民間軍事産業を告発

第七回公聴会(三多摩公聴会)のテーマは「戦争民営化」です。現在のイラク戦争・占領を支えている民間軍事会社の存在はファルージャ虐殺の引き金にもなった米

人以上の親子が、「子どもたちに家を！食べ物！教育を！」、「戦争はいらぬ、平和を！」などの要求を掲げ、ねり歩きました。

フィリピンの現実を知るとともに、アジアの反戦ネットワークを作り、アロヨを含め、ブッシュ、ブレア、小泉を糾弾する盛りだくさんの二泊三日のツアーに、あなたも是非御参加ください。
マニラ公聴会 広報 中條千尋

民間人四人の死で有名になりました。実はこの四人はブラック・ウオーター社の社員であり、すべて元米軍の特殊部隊の出身者でした。あの占領当局の責任者だったブレマー行政官の周りに銃を構えて寄り添っていたガードマンも軍人ではなくこの会社の社員でした。アブグレイブの拷問まで民間軍事会社の社員が関わっていた事も明らかになっています。

いつの間にか今まで軍がやっていたことが民間会社に取って代わられる。こんな状況が今進行しています。イラクには一万人を超える民間軍事会社の関係者がいるそうです。始めは冷戦の崩壊を受けて軍事費を削るために始まったと言われるこの外部委託方式「民営化」が実はこの下に儲けのために戦争のあらゆる分野を代行する民間企業を増殖させてしまいました。アメリカでは、この民間軍事企業がブッシュ政権の中心的な関

僚達とも癒着しています。というより一体となっているという表現がふさわしいかもしれせん。

この分野の有名な研究者であるP.W.シンガー(ブルッキングス研究所)によれば、「戦争の姿に地殻変動が起きている」というのです。これまでの私達の民衆法廷では踏み込んでいない現代の戦争発生させる重要な要素となっている「戦争民営化」。その概要を調査し問題点と犯罪性を告発したいと思います。

三多摩公聴会・有賀精一

10/3 滋賀公聴会 自衛隊派兵と イラクODAは戦争犯罪

一〇月三日、滋賀公聴会は、小泉首相の自衛隊派兵とイラクODA(政府開発援助)が、日本企業の利権のための占領参加であり戦争犯

当面する公聴会等の予定

- 9 / 23 全国実行委員会
9月23日(祝) 18:00
なかのZEROホール西館学習室A
- 9 / 25 三多摩公聴会
9月25日(土) 10時開場 10:30~16:00
立川市民会館(アミュール立川) 小ホール
連絡先: 070-6665-7094 有賀
- 10 / 3 滋賀公聴会
10月3日(日) 13:30~17:30
明日都(あすと)浜大津4階ホール
連絡先: 090-7879-3545 山上
- 10 / 10, 11 WTI広島公聴会
1日目 10月10日(日) 14:00~17:30
広島YMCA会館国際文化ホール
2日目 10月11日(月・祝) 10:30~17:00
広島市西区民文化センターホール
連絡先: 090-8602-4232 日南田
主催: イラク世界民衆法廷広島公聴会実行委員会
協賛: イラク国際戦犯民衆法廷
- 10 / 16 フィリピン・マニラ公聴会
10月16日(土) フィリピン・マニラ市内
現在公聴会参加者を募集しています。ご希望の方は
至急ご連絡を。
email: masa_chu@hotmail.com
A日程は10月15日~17日
B日程は10月15日~18日
(注) 締め切りはすぎていますが、空席があれば。
主催: MAPALAD KA(親と子の平和運動)、
PDSAP(アジア太平洋地域における平和
と非武装、フィリピン委員会)、ICTIの
共催
- 10月30日(土) 千葉公聴会
11月3日(祝) ユース公聴会(一橋大学)
11月14日(日) 大阪・南部公聴会(堺)
11月21日(日) 九州公聴会in福岡
11月21日(日) 大阪・北部公聴会(枚方)
- < 第3回・第4回公判 - 結審 >
12月11日~12日、東京公判(教育会館)

公聴会テーマのもう一つの柱であるイラク戦争・占領の違法性・犯罪性に関しては、国際法学者の家正治さん、自衛隊イラク派兵差止訴訟の会の池住義憲さん、アジアプレス綿井健陽さん、そしてイラク市民レジスタンスからの証言がなされます。

ぜひとも二日間とも会場満杯の参加者で広島公聴会を成功させたいと思います。賛同、カンパを含め、全国からのご支援をよろしく願います。

WTI広島公聴会実行委員会
日南田成志

罪であることを明らかにしたいと思いません。

八月にイラクを訪れたMDS新聞社豊田記者の報告では、占領軍撤退、自由・平等、政教分離の社会をつくりだそうとする人々の姿が報告されます。宗教・宗派の違いを超え多民族が共同で自治組織をつくり生活改善を実現している「連帯地区」(キルクーク)、性的差別や虐待を受けた女性のためのシェルターづくりなどです。彼らは、市民を犠牲にするイスラム政治勢力による武装闘争にも反対しています。米軍と闘うと称して住民を追い出そうとする武装勢力を退去させると同時に米軍と交渉し戦闘や被害を防ぎ占領軍を撤退させる取組などが紹介されます。こうした大手マスコミが伝えない市

民レジスタンスの姿が明らかにされず。

しかし、失業・貧困を解決せず虐殺を続ける占領軍に参加し、アメリカに次ぐ多額の戦費支出を行っているのが日本です。日本のODA(政府開発援助)は企業の海外進出を助ける役割だけでなく、今や戦争と外交の道具となつていきます。私たちはこのODA支出が戦争犯罪であることを明らかにしたいと準備しています。日本とイラクとの関係は深く、一九七〇から八〇年代にかけ日本企業がイラク南部(自衛隊派兵地サマワがある)に大きな権益を築いています。こうしたグローバル資本の利益「国益」のために、自衛隊派兵と一体のものとしてODAが侵略・占領つまり人殺しに使われています。

ODA問題の第一人者である鷲見一夫(東京国際大学さんの講演とあわせ、市民証言によって、戦略ODAを徹底的に批判し、日本の戦争

システムをストップさせる公聴会にしようと考えています。
皆さん、ぜひご参加ください。
滋賀公聴会実行委員会

10/10~11 WTI広島公聴会 DU兵器使用問題を焦点化 イラク市民レジスタンスの証言も

WTI広島公聴会まであとひと月を切り、全体のプログラムや証言者がようやくほぼ固まりました。実行委では二日日程の会場を満杯にすべく、最後の追い込みに入っています。

WTI(イラク世界民衆法廷)

では、当初から広島セッションは主要な柱として位置付けられており、国外からの期待も大きい公聴会です。四月のブリュッセル法廷、五月のニューヨーク公聴会を経て、この秋は、アラブ、イタリヤ、スウェーデン等々、世界各地での公

聴会が準備されています。来春三月二〇日のトルコ・イスタンブールへむけて、それぞれの公聴会が独自のテーマ・切り口でイラク戦争の不当性を断罪しようとチャレンジしています。

そうした世界的な取り組みの一端として、広島公聴会ではイラク戦争におけるDU兵器使用の問題を焦点化します。劣化ウラン弾の危険性について、いち早く警鐘を鳴らし、世界的な権威でもあるカナダのロザリー・バーテルさんが「戦争におけるDU兵器使用」のタイトルで、また日本からは市川定夫さんが「低線量被曝の人体への影響―DU兵器の危険性」と題して証言されます。また、NO・DUヒロシマ・プロジェクトは、イラク現地で行ったサンプル採取調査とその分析結果について貴重な証言を準備しています。